

2024(令和6)年2月15日付報道発表資料
[本リリース発信元]ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

KAAT 神奈川芸術劇場プロデュース

『ライカムで待っとく』

沖縄本土復帰 50年の2022年に初演をし
数々の賞を受賞した話題作が満を持して京都にやってきます！



撮影：引地信彦 2022年度 初演より

作：兼島拓也 演出：田中麻衣子

出演：

中山祐一朗 前田一世 佐久本宝 蔵下穂波
小川ゲン 神田青 魏涼子 あめくみちこ

2024年6月7日(金)19:00-、8日(土)14:00-
ロームシアター京都 サウスホール

[本リリース発信元]

ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 広報担当：儀三武、加藤陸、山形
電話：075-771-6051(10:00~17:00) FAX:075-746-3366 E-mail:press@rohmtheatrekkyoto.jp

誰も読もうとしなかった、読まれなかった沖縄の物語は、 沖縄の人々から我々が鋭く問われている、“今を生きる私たち”の物語。

沖縄本土復帰 50 年となった 2022 年 12 月。沖縄在住の若手劇作家・兼島拓也が書き下ろし、沖縄に出自を持つ田中麻衣子が演出を手掛けた『ライカムで待っとく』は、短い上演期間にも関わらず、観客に大きな衝撃を与えました。また第 30 回読売演劇大賞優秀作品賞受賞、第 26 回鶴屋南北戯曲賞ノミネート、第 67 回岸田國士戯曲賞最終候補作に選ばれるなど話題を呼びました。

この作品は、アメリカ占領下の沖縄で起こった 1964 年の米兵殺傷事件を基に書かれたノンフィクション「逆転」(伊佐千尋著、新潮社・岩波書店刊)に着想を得て創作されました。当時の資料を調査するとともに、現代を生きる東京の若者たち、基地問題の専門家、同じ基地の町・横須賀に暮らす人たちなどにヒアリングも実施しながら、田中と推敲を重ね、1 年の歳月をかけて兼島が書き上げました。

本作には、米軍基地が身近にある環境で生まれ育ち、現在も基地と生活が隣接している中で活動を続ける兼島の、「沖縄は日本のバックヤードではないのか」「沖縄の犠牲の上に成り立っている日本という国」という想いが織り込まれています。沖縄の過去と現在と未来が交錯する軽快なミステリータッチの物語の中で、私たちは知らぬ間に沖縄の複雑性やこの国の在り方を直視させられるのです。

田中麻衣子の演出は、内地の人間が今まで知らずに生きてきてしまった、見ないふりをしてきてしまったこの物語、解決して終わる問題ではない、やるせなさやあきらめ、どうしようもない状況、そのありのままを舞台上に乗せ、私たちに突きつけます。目まぐるしく展開する舞台の中で、わけのわからないまま事態に巻き込まれていく内地から来た主人公・浅野を中心に、一見優しく「寄り添う」からこそその無責任さをじわじわと感じさせ、見終えた後に考えさせられる作品に創り上げました。

沖縄で生まれ育った兼島だからこそ書ける視点と、その本質を丁寧に演出した田中による、これまで誰も読もうとしなかった、読まれなかった沖縄の物語は、沖縄の人々から我々が鋭く問われている、今を生きる私たちの物語なのです。

初演時には、出演する俳優の半数が沖縄出身ということへも多くの評価の声が寄せられました。俳優たちの発する言葉の一つ一つが観客を物語の世界へ引き込んでいきました。今回もベテランのあめくみちこをはじめとする蔵下穂波、神田青といった沖縄出身の俳優陣、前田一世、小川ゲン、魏涼子といった素晴らしい俳優陣が続投します。さらに阿佐ヶ谷スパイダースのオリジナルメンバーとして数々の舞台で存在感を発揮する中山祐一朗、沖縄出身で多くのドラマや映画で活躍目覚ましい佐久本宝が新たに座組に加わります。

作家・演出家プロフィール／コメント

作：兼島拓也（かねしま・たくや）



1989年、沖縄県沖縄市出身。
2013年に演劇グループ「チョコ泥棒」を結成し、脚本と演出を担当。沖縄の若者言葉を用いた会話劇を得意とし、コメディやミステリを軸としたオリジナル脚本の上演を行う。また、琉球舞踊家との演劇ユニット「玉どろぼう」としても活動する。
脚本を担当したオーディオドラマ『ふしぎの国のハイサイ食堂』（NHK・2021年）で第31回オーディオドラマ奨励賞入選。『Folklore（フォークロア）』（2018年）で第14回おきなわ文学賞シナリオ・戯曲部門一席を受賞。
『ライカムで待っとく』が第30回読売演劇大賞優秀作品賞を受賞、第26回鶴屋南北戯曲賞および第67回岸田國士戯曲賞で最終候補となる。

この作品を再演することができ、とても光栄です。初演から2年、ウクライナでの悲劇は未だ収束せず、あらたにガザ地区でも見るに堪えない事態が勃発し、心が苦しくなるばかりです。私が住むここ沖縄は、相変わらず「決まり」が覆ることもなく、粛々と、そして堂々と、物事は進んでいきます。先日屋久島沖でオスプレイが墜落した後、同じ機体たちは1週間ほど何事もなく飛び続け、休憩に入りました。この文章が公開される頃には、優雅に、気持ちよく飛び回っているでしょう。本土復帰50年というお祭りも終わり、変わらず嫌な方へと変わり続ける世界の中に、この作品が何かしらの影響をもたらしてくれたらと願いますが、まあ、どうなのでしょう。

演出：田中麻衣子（たなか・まいこ）



兵庫県宝塚市生まれ。日本大学芸術学部演劇学科卒業。
主な演出作品に『かけがえない日々〜冷蔵庫のうえの人生』『君は即ち春を吸ひこんだのだ』『ローズのジレンマ』『Shakespeare's R&J』『Ordinary Days』『A New Musical ゆびさきと恋々』『怪物／The Monster』『どうぶつ会議』『血の婚礼』『胎内』『罪と罰』他。
2014年文化庁新進芸術家海外派遣制度でロンドンにて研修。Théâtre MUIBO 主宰。

沖縄本土復帰50年の冬に上演した『ライカム〜』の再演です。兼島さんのセリフを先頭に、皆で、一層、熱気を帯びたものにしたいと思っています。歌って踊ってお酒を飲んで三線弾いて、集まっておしゃべりすることが大好きな登場人物たちを、ぜひ観に来てください。沖縄と神奈川、1964年と2024年、あっち側とこっち側、突きつけられる現実を、劇場で体感してください。

2022年上演時 劇評

沖縄の理不尽 実感した先に

1964年に普天間で起きた事件を起点に、劇作家・兼島拓也が、自身が住む沖縄の過去、現在、未来へと長い線を引く。それは怒りや涙が刻まれた太線でなく、うちなーぐち（沖縄語）のように柔らかく、だからこそ深く届く。（中略）

戦争以前は日本の、終戦以降は日米ふたつの政府の都合で、不条理な差別とルールを押し付けられてきた沖縄。その史実をたどるかに見えた物語は程なくフィクションに舵を切る。この仕掛けによって、無邪気な中立派だった浅野と観客は、沖縄が受けてきたのがどれだけの理不尽か、実感のどば口に立つ。だがその先には、真の当事者には簡単になれない残酷な苦さも用意される。一方であるばん（日本）とコーラ（アメリカ）で空腹を満たしてきた現地の人々のたくましさも描かれる。この筆力を持つ兼島を探し出し、協働した劇場の功績は大きい。

徳永京子（演劇ジャーナリスト） 朝日新聞 2022年12月8日（木）付（一部抜粋）

登場人物

浅野悠一郎	： 中山祐一朗
藤井秀太	： 前田一世
浅野知華	： 魏涼子
伊礼ちえ	： 蔵下穂波
運転手	： 佐久本宝
金城	： あめくみちこ
佐久本寛二	： 佐久本宝
嘉数重盛	： 神田青
平豊久	： 小川ゲン
佐久本雄信	： 前田一世
大城多江子	： あめくみちこ
栄麻美子	： 蔵下穂波

あらすじ

雑誌記者の浅野は、先輩から1964年に沖縄で起きた米兵殺傷事件について、詳細な手記を入手したので、これを元に記事を書くように頼まれる。浅野は、妻の祖父・佐久本の葬儀へ参列するため、ちょうど沖縄へ向かうことになっていた。そして妻の実家で、実は佐久本が米兵殺傷事件の容疑者だったことを知る。

浅野はすぐに、佐久本や共犯として逮捕された男たちの半生を絡めた記事を書くが、なぜか書いた覚えのない内容に文章が書き換えられてしまう。

過去と現在が渾然となった不可解な状況下で、沖縄が歩んできた歴史や現在の姿を目の当たりにする浅野。記者として何を書くべきなのか気づきはじめたとき、突然娘の行方が分からなくなってしまう…。

「ライカム」とは

かつて沖縄本島中部の北中城村比嘉地区に置かれていた琉球米軍司令部(Ryukyu Command Headquarters)の略。現在「ライカム」は地名として残っている。司令部があった近辺の米軍関係者専用のゴルフ場の跡地には、2015年「イオンモール沖縄ライカム」がオープン。地元民のみならず県外からの観光客も多く訪れる場所になっている。

「米兵殺傷事件」とは

1964年8月16日未明、宜野湾市普天間の飲食街周辺で、米兵2人と数人の沖縄人が乱闘し、米兵1人が死亡、1人が重傷を負った。沖縄青年4人(2人は徳之島出身)が普天間地区警察署に逮捕され、傷害致死罪で米国民政府裁判所に起訴された。事件は陪審に付された。

沖縄人に重罪を課そうとする米国人らが陪審員の多数を占め、評議は4人に不利な流れとなったが、無罪を主張する沖縄人陪審員・伊佐千尋の粘り強い説得で形勢は逆転し、傷害致死罪については無罪、傷害罪では有罪の評決に至った。しかし、同年11月の判決では3人に懲役3年の実刑(1人は猶予刑)という初犯としては重い量刑が下った。

殺傷事件と沖縄住民への差別意識が渦巻く陪審評議、その後の判決は米統治下に置かれた沖縄の過酷な現実を浮き彫りにしている。

出演者プロフィール



中山祐一朗 (なかやま・ゆういちろう)

1998年に阿佐ヶ谷スパイダースの第3回公演に参加。以降、メンバーとしてほぼ全ての公演に関わる一方、プロデュース公演や映像作品など幅広く活躍する。近年の主な出演作品に【舞台】『僕のフレンチ -special menu-』(構成・台本・演出：高泉淳子)、阿佐ヶ谷スパイダース『ジャイアンツ』(作・演出：長塚圭史)、『ようこそ、ミナト先生』(演出：宮田慶子)、CHAIroiPLIN おどる落語『あたま山』(振付・構成・演出：スズキ拓朗)、『アルトゥロ・ウイの興隆』(演出：白井晃)、『物理学者たち』(演出：ノゾエ征爾)、椿組『貫く閃光、彼方へ』(演出：高橋正徳)、【ドラマ】「警部補ダイヤモンド」(EX)、星新一の不思議な不思議な短編ドラマ「もてなし」(NHK)、「遺留捜査」(EX) などがある。



前田一世 (まえだ・いっせい)

大阪府出身。獨協大学外国語学部ドイツ語学科卒業。2005年新国立劇場演劇研修所に入所し、08年同研修所終了。主な出演作に、【舞台】『エレファントマン』(森新太郎演出)、『悪霊』(松森望宏演出)、こまつ座『どうぶつ会議』(田中麻衣子演出)、『MOTHER-君わらひたまうことなかれ』(演出：宮田慶子)、『のっぽの古時計』『真夏の夜の夢』(演出：河田園子)、『piaf』『日本人のへそ』『あわれ彼女は娼婦』『もとの黙阿弥』『マニラ瑞樹記』『オセロー』『太陽に灼かれて』『カエサル』(演出：栗山民也)、『ボビー・フィッシャーはパサデナに住んでいる』(演出：上村総史) など。アニメ、洋画、海外ドラマの吹き替えも多数手がけている。



佐久本宝 (さくもと・たから)

1998年、沖縄県出身。沖縄県うるま市にて中高生が演じる舞台・現代版組踊『肝高の阿麻和利』(企画制作：あまわり浪漫の会)の七代目阿麻和利役を演じる。また、映画「怒り」で1200人のオーディションを勝ち抜き映画初出演をし、第40回日本アカデミー賞新人俳優賞を受賞。主な出演作に【映画】「戻待ち」(監督：白石和彌)、「悪の華」(監督：井口昇)、「冬薔薇」「ラーゲリより愛を込めて」、【ドラマ】「3年A組-今から皆さんは、人質です-」(NTV)、連続テレビ小説「エール」(NHK)「DIVE!!」(TX)、「未来への10カウント」(EX)、「幽☆遊☆白書」(Netflix) などがある。



撮影：佐内正史

蔵下穂波 (くらした・ほなみ)

2002年、小学校三年生の時に映画「ホテル・ハイビスカス」に主演・美恵子役でスクリーンデビュー。主な作品に【映画】「真夏の夜の夢」「ビリギャル」「サニー/32」「島守の塔」、【テレビ】「あまちゃん」「美女と男子」「甲子園とオーバーと爆弾なべ」「70歳、初めて産みますセブンティウイザン」「ライオンのおやつ」「ふたりのウルトラマン」「プリズム」、【舞台】『出発』『ジルゼの事情』『広島に原爆を落とす日』『寝盗られ宗介』『レティスとラベッジ』『近松心中物語』などがある。



撮影：石井岳龍

小川ゲン (おがわ・げん)

大学在学中に俳優として始動。映像作品を中心に活動するが、2015年の舞台『マーキュリー・ファー』（演出：白井晃）への出演をきっかけに、近年は舞台作品へも活躍の場を広げている。近年の主な出演作に、【舞台】『NO.9—不滅の旋律—』（15・18・20）、『春のめざめ』（17・19）、『アルトゥロ・ウイの興隆』（20・21）（演出：白井晃）、『Shakespeare's R&J』（18／演出：田中麻衣子）、『漂幻する駝鳥』（23／演出：平原慎太郎）、『パートタイマー・秋子』（24／演出：永井愛）、【映画】「ヴァニタス」（16／監督：内山拓也）、「パンク侍、斬られて候」（18／監督：石井岳龍）など。



神田青 (かみだ・せい)

1988年沖縄県うるま市生まれ。四方を基地で囲まれた地区で生まれ育ち、米軍基地で働いた経験もある。2012年ラオス人民民主共和国にて舞台制作に2年間従事。2015年に帰国。那覇市『わが街の小劇場』で多数出演を重ねる。2019年『ギ兄弟 3on3』（作・演出：パクファナム）でタイバンコク演劇祭(BTF)で、Best International Performance Award 受賞。4か国語と海外経験を活かしてタイ、フィリピンなど海外でも活動。他に二兎社『走り去る人たち』、ミュージカル『ジョンマイラブ』『霞色のライラック』や、ドラマ「刑事7人」などがある。



魏涼子 (ぎ・りょうこ)

大阪市出身。桐朋学園短大演劇科卒業後、全日空に客室乗務員として入社。その後、劇団青年座に入団。94年NHK連続テレビ小説「春よ、来い」でデビュー。主な出演作品に、【舞台】『三文オペラ』『ほととぎす・ほととぎす』『金閣炎上』(青年座公演)、『見よ、飛行機の高く飛べるを』(演出：アントワヌ・コーベ)、『KITCHEN』(演出：蜷川幸雄)、『まほろば』『彼女を笑う人がいても』(演出：栗山民也)。【映画】「おもちゃ」(監督：深作欣二)、「HOKUSAI」(監督：橋本一)【テレビ】「新・牡丹と薔薇」「仮面ライダービルド」など。また声優として「24」「私はラブ・リーガル」やチャン・ツイイー、マリオン・コティヤール、キム・ジョンウンなどの吹き替えを担当するなど多数の海外ドラマ・映画・アニメで活躍している。

あめくみちこ



1983年、劇団東京ヴォードヴィルショーに入団。劇団公演のみならず外部公演、ドラマ、映画などにも数多く出演している。第20回読売演劇大賞優秀女優賞受賞。【主なドラマ】「警視庁・捜査一課長」「弁護士 高見沢響子」「再捜査刑事・片岡悠介」「カーネーション」「臨場」「ホテルマン」「ちむどんどん」などに出演。【主な舞台】『たいこどんどん』『終われない男たち』『チック』『春のめざめ』『かもめ』『狸御殿』『パパのデモクラシー』『アパッチ砦の攻防』『竜馬の妻とその夫と愛人』『焼肉ドラゴン』『三文オペラ』『負傷者16人-SIXTEEN WOUNDED-』『願いがかなうぐつぐつカクテル』『INTO THEWOODS』『ケダモノ』『浅草キッド』に出演。

公演概要

日 時：2024年6月7日(金) 19:00 開演
8日(土) 14:00 開演(託児あり。詳細は「アクセシビリティ情報」をご覧ください)

開 場：各回開演30分前

上演時間：2時間程度(休憩なし)

会 場：ロームシアター京都 サウスホール

企画制作：KAAT 神奈川芸術劇場

主 催：ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

助 成：一般財団法人地域創造

チケット情報

全席指定

一般 4,000円 / ユース(25歳以下) 2,000円 / 18歳以下 1,000円

※未就学児入場不可。

※車椅子席をご希望の方、介助者同伴の方は、下記アクセシビリティ情報をご覧ください。

※18歳以下およびユース(25歳以下)チケットは、公演当日に受付にて年齢が確認できる証明書(学生証、免許証等)をご提示ください。

チケット取り扱い:

チケット先行発売日: 3月8日(金)

※フレンズ会員(オンライン会員)、Club会員(京都コンサートホール・ロームシアター京都共通の会員制度)・京響友の会会員

一般チケット発売日: 3月15日(金)

- ・オンラインチケット(24時間購入可 ※要事前登録(無料)) <https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/>
- ・ロームシアター京都 チケットカウンター TEL.075-746-3201
(窓口・電話とも 10:00~17:00/年中無休 ※臨時休館日等により変更の場合あり)
- ・京都コンサートホール チケットカウンター TEL.075-711-3231
(窓口・電話とも 10:00~17:00/第1・3月曜日休館 ※休日の場合は翌日)
- ・チケットぴあ <http://t.pia.jp> Pコード: 524-584

チケット予約
購入ページ



お問合せ: ロームシアター京都 チケットカウンター TEL.075-746-3201

アクセシビリティ情報

<きこえない・きこえづらいお客様へ>

- ・ヒアリングループ

ヒアリングループの専用受信機をご利用いただけます。(座席位置および台数に限りあり)

- ・ポータブル字幕機

ポータブル字幕機をご利用いただけます。(座席位置および台数に限りあり)

<車椅子でご来場のお客様へ>

車椅子席をご希望の方、介助者同伴の方は、下記お問合せ先までご連絡ください。

<託児サービスについて>

6月8日(土) 託児サービスあり。対象年齢: 3か月~就学前 料金: 有料 1,000円 /1公演/1人

上記観劇サポートのお問合せ・お申込み

申込締切: 5月31日(金)

TEL. 075-771-6051、Fax. 075-746-3366、Email. accessibility@rohmtheatreyoto.jp

メールでのお申し込みは、件名「公演名・アクセシビリティ」、本文「お名前・連絡先・観覧日・希望するサポート・利用人数・介助者の有無」を記入のうえ、accessibility@rohmtheatreyoto.jp までお送りください。

他地域での公演

【神奈川公演】 2024年5月24日(金)~6月2日(火)

KAAT 神奈川芸術劇場 中スタジオ <https://www.kaat.jp/>

【福岡公演】 2024年6月15日(土)

久留米シティプラザ 久留米座 <https://kurumecityplaza.jp/>

【沖縄公演】 2024年6月22日(土)~23日(日)

那覇文化芸術劇場なはーと 小劇場 <https://www.nahart.jp>